

正誤表（達成状況報告書）

（20：国立大学法人埼玉大学）

No.	現況分析単位 (学部・研究科等)	頁数	誤	正	修正事由
01		P14	専門職学位過程教職実践専攻	専門職学位 <u>課程</u> 教職実践専攻	誤字のため (B) 教職大学院の設置 1 行目)
02		P15	アクティブ・ラーニング型科目の開講数が増え、学生の学修時間が増加した	アクティブ・ラーニング型科目の開講数が増え、学生の学修時間が増加した。	句読点がないため (O) 小項目 1-1-2 の総括下から 1 行目)
03		P17	なお、課題解決型演習Ⅱについては平成 31 年から開講し、15 名の学生が受講した。	なお、課題解決型演習Ⅱについては平成 31 年から開講し、15 名の学生が受講した。	文中にスペースが入っていたため (B) アクティブラーニングの普及下から 3 行目)
04		P18	大学教育再生加速プログラム (AP) の申請に際して、	大学教育再生加速プログラム (AP) の申請に際して、	文頭が揃っていないため、スペースの追加 ((D) 学修成果の可視化 5 行目)
05		P21	工学部では、インターンシップの単位認定科目の	工学部では、インターンシップの単位認定科目 <u>を</u>	誤字のため ((A) 学外学修下から 4 行目)
06		P23	理工学研究科では、理工学係が作成する	理工学研究科では、理工 <u>研</u> 係が作成する	誤字のため (上から 8 行目)
07		P24	学長室職員、教育企画課職員で構成学士課程教育検討プロジェクトチーム	学長室職員、教育企画課職員で構成 <u>した</u> 学士課程教育検討プロジェクトチーム	述語の不足のため (小項目 1-2-1 の総括 3 行目)
08		P25	<u>(以下「PT」という。)</u>		以下の文で「PT」になっていないためこの一文を削除 (O) 特記事項 (小項目 1-2-1) (優れた点 1 行目))
09		P.27	《中期計画 1-2-1-2 に係る状況》中期計画の末尾 する。	《中期計画 1-2-1-2 に係る状況》中期計画の末尾 する。 <u>(★)</u>	R2.8.4 の大学改革支援・学位授与機構からのメールにより [個性の伸長に向けた取組(★)] について、P.3 記載との齟齬についてご指摘いただいたため

正誤表（達成状況報告書）

10	P.35	《中期計画 1-3-1-1 に係る状況》 中期計画の末尾 (◆)	《中期計画 1-3-1-1 に係る状況》中 期計画の末尾 (◆) <u>(★)</u>	R2.8.4 の大学改革支援・学位授与 機構からのメールにより[個性の伸 長に向けた取組(★)]について、P.3 記載との齟齬についてご指摘いた だいたため
11	P.47	《中期計画 1-4-1-2 に係る状況》 中期計画の末尾 フィードバック する。	《中期計画 1-4-1-2 に係る状況》中 期計画の末尾 フィードバックす る。 <u>(★)</u>	R2.8.4 の大学改革支援・学位授与 機構からのメールにより[個性の伸 長に向けた取組(★)]について、P.3 記載との齟齬についてご指摘いた だいたため
12	P.63	今後とも継続的に読売新聞の連続 市民講座や埼玉新聞のコラムで研 究内容を一派向けに紹介すると伴 に	<u>今後も</u> 継続的に読売新聞の連続市 民講座や埼玉新聞のコラムで研究 内容を <u>一般</u> 向けに紹介すると <u>とも に</u>	誤字・変換ミスのため (B)マスメディアとの連携 1 行目 から)
13	P.68	《中期計画 2-2-1-2 に係る状況》 中期計画の末尾 (◆)	《中期計画 2-2-1-2 に係る状況》中 期計画の末尾 フィードバックす る。 (◆) <u>(★)</u>	R2.8.4 の大学改革支援・学位授与 機構からのメールにより[個性の伸 長に向けた取組(★)]について、P.3 記載との齟齬についてご指摘いた だいたため
14	P.76	分析を行った結果について報告を うけた。	分析を行った結果について報告を <u>受けた。</u>	誤字・変換ミスのため (1 行目)
15	P.92	【外国人教員比率】平成 28 年度： 8.2 平成 29 年度：8.4 平成 30 年度：8.1 令和元年度：8.0	【外国人教員比率】平成 28 年度： <u>8.3</u> 平成 29 年度： <u>8.6</u> 平成 30 年 度： <u>8.3</u> 令和元年度：8.0	達成状況報告書確認事項として提 出した数値と齟齬が生じているた め
16	P.93	・令和元年度に、「ストックホルム 国際青年科学セミナー	・平成 29 年度に、「ストックホルム 国際青年科学セミナー	年度の記載に誤りがあったため (○小項目の達成に向けて得られ た実績 (中期計画 4-1-1-2) 3 行目)
17	P.3	教養学部はアメリカ・アーカンソ ー州立大学、経済学部はフランス・ パリ第 7 大学と、それぞ れ学部レベルのダブルディグリー ・プログラムを締結し、修了生 を出した。	教養学部はアメリカ・アーカンソ ー州立大学、経済学部はフランス・パ リ第 7 大学と、それぞ れ学部レベルのダブルディグリー・ プログラムを締結し、 <u>経済学部では</u> 修了生を出した。	表現に誤りがあったため

正誤表（達成状況報告書）

18	P3	<p>教養学部はアメリカ・アーカンソー州立大学、経済学部はフランス・パリ第7大学と、それぞれ学部レベルのダブルディグリー・プログラムを締結し、修了生を出した。（関連する中期計画（関連する中期計画1-1-1-3、4-1-2-1））</p>	<p>教養学部はアメリカ・アーカンソー州立大学、経済学部はフランス・パリ第7大学と、それぞれ学部レベルのダブルディグリー・プログラムを締結し、経済学部では修了生を出した。（関連する中期計画（関連する中期計画1-1-1-3、4-1-2-1））</p>	<p>表現に誤りがあったため <戦略3の下での取組></p>
19	P95	<p>海外の教育機関との教育連携として、教養学部はアメリカ・アーカンソー州立大学、経済学部はフランス・パリ第7大学と、それぞれ学部レベルのダブルディグリー・プログラムを実施し、修了生を出した。理工学研究科も台湾交通大学とダブルディグリー・プログラムを実施して修了生を出し、</p>	<p>海外の教育機関との教育連携として、教養学部はアメリカ・アーカンソー州立大学、経済学部はフランス・パリ第7大学と、それぞれ学部レベルのダブルディグリー・プログラムを実施し、経済学部では修了生を出した。理工学研究科も台湾交通大学とダブルディグリー・プログラムを実施して修了生を出し、</p>	<p>表現に誤りがあったため (小項目4-1-2の総括)</p>
20	P95	<p>・教養学部、経済学部では、学部レベルのダブルディグリー・プログラムを実施し、修了生を輩出した。</p>	<p>・教養学部、経済学部では、学部レベルのダブルディグリー・プログラムを実施し、経済学部では修了生を輩出した。</p>	<p>表現に誤りがあったため (○特記事項(小項目4-1-2) (優れた点))</p>
21	P4	<p>これらの取組を実施するため、学生のキャリア形成を総合的に支援する「統合キャリアセンターSU(仮称)」を設置するとともに、</p>	<p>これらの取組を実施するため、学生のキャリア形成を総合的に支援する「統合キャリアセンターSU」を設置するとともに、</p>	<p>他と標記を統一するため</p>
22	P87	<p>平成28年度の「ピストグラム入りうちわ」の提言</p>	<p>平成28年度の「ピクトグラム入りうちわ」の提言</p>	<p>誤字のため((B自治体等への政策提言4行目))</p>